

～地域で生きるために～

入退院支援における多職種連携

2022年6月16日(木)14:00～15:40 WEBにて、多職種連携事例検討会を開催しました。今回は、事例「入退院を繰り返した独居認知症高齢者の支援について」それぞれの立場からパネルディスカッション形式でお話をいただきました。

後、多職種が13グループに分かれて意見交換を行い、多くの質疑応答を通し、学びを深める場となりました。(65名参加)

座長	神戸市西区医師会 副会長 久野病院	院長	久野 英樹氏
パネリスト	神戸市立西神戸医療センター地域医療室	MSW	菅田 大介氏
	みどり訪問看護ステーション	管理者	小川美智代氏(事例提供)
	ケアプランセンターたまつ	管理者	政井伊久美氏

看護師より事例紹介後、「パネルディスカッション形式」にて、“在宅生活を見据えて入退院支援において各専門職の役割と課題” “各専門職が入退院時情報共有する時に心掛けている事、注意点等” “Webカンファレンス開催時、どの点を重視するか、また課題等” についてパネリストの皆様より貴重な発表をいただきました。

「意見交換」では各グループ、司会者の進行により“気づき、思う事・質問したい事”等を話し合いました。

「質疑応答」では「退院前カンファレンスの実施について」「病院薬剤師とかかりつけ薬剤師との情報共有の現状」他合計7問ご対応頂きました。

久野医師



菅田氏



小川氏



政井氏



学び：非常に困難な状況下にあいながらも、本人の気持ちに在宅支援チーム・病院が寄り添えた事例。各専門職より現場に則した情報共有・連携については、今後の取り組みに活かせる内容だった。

【成 果】

(アンケートより一部抜粋)

ケアマネジャー) ・情報の迅速な提供と受け取りが非常に重要だと改めてわかりました。

・意見交換をしながら専門職同士が協働することで、不可能と思われた利用者の希望を実現することができたというケースについて学ぶことができた。

訪問看護師) ・入院するときにサマリーを病院に送るが、MSWからのお話で、その方の生活環境、家族の介護力、家族の意向等わかれば、スムーズな退院に結びつくと思えた。

薬剤師) ・コロナ禍、利用者を受け入れる方々は最大限の努力をして向き合っている事を学んだ。

リハ職) ・薬業連携と同じで、セラピスト・セラピスト連携もできる下地作りが必要と思った。

あんしんすこやかセンター) ・退院連携時に苦労している事や、多職種の色々な意見交換ができた。情報のすり合わせる事の大切さを再認識した。

施設職員) ・多職種の連携が上手くできると、希望する場所でのぞむ日常生活ができると実感。

訪問介護) ・利用者の意思を尊重し、各専門職が連携し情報の共有、問題解決しながら利用者や利用者家族を支援する大切さを学びました。

～多数のご意見ありがとうございました～